

# フロンティア通信

第5号 平成24年11月21日(水)発行  
京都府立久美浜高等学校

## 生産科学系列先進地視察研修 [11月5日(月)]

### 刺激的な1日に！ 感動と驚きの連続！

～農場規模の大きさと専門性の高さ、他校生のモチベーションの高さを知る1日に～

11月5日(月)に生産科学系列の2・3年生13名が、先進地視察研修として、農業単独校の京都府立農芸高等学校と、完全閉鎖型の人工光型植物工場で野菜を栽培されている(株)スプレッド亀岡プラントを見学しました。

午前中は農芸高校に行き、同世代の高校生が本校農場よりも大規模な農業施設内で、より専門性の高い農業実習の授業を受けている姿に感動と驚きを覚え、新たな刺激を受け、今後の高校生活をあらためて見つめ直す機会となりました。

また、午後からは(株)スプレッド亀岡プラントに行き、太陽光を一切使用せずLED照明だけで野菜の生産をおこなう植物工場を見学しました。ここで収穫された野菜は、ディズニーランド内の食堂や航空機の機内食などに1年中同一価格にて広く使われているとのことでした。この工場見学を通して農業に対する視野が広がり、今後の農業の新たな可能性を考える機会となりました。

参加した13人全員が多くの刺激を受け、今後の農業の実習や学習に対する大きな収穫を得ることのできた1日となりました。

農芸高校乳牛舎見学



農芸高校草花温室見学



(株)スプレッド亀岡プラント見学



#### 生徒の感想

僕達と同じ高校生が農業実習に真剣に取り組んでいる姿を見ることができ、僕達以外にも多くの人が全国ではこうして汗を流しながら頑張っているんだなあと思いました。(2年男子)

僕たちも久美浜高校でトマトを栽培しているけど、その規模をはるかに超え、何十倍の量を生産している学校がこんなに近くにあることに大変驚きました。僕の今のトマトの分担はかなり少ないということもわかりました。(3年男子)

# 1年生キャリア教育講演会 [11月14日(水)]

## 「今のままでもいりけどちょっと変えてみよう」

講師 岡本 忠則氏(キャリアプロテュース研究所)

パナソニックに35年間勤務され、人事部長を務められ、その後大学のキャリア教育のアドバイザーや人材支援に関するセミナーの講師などを務めておられる岡本忠則氏を招き、1年生を対象にお話をいただきました。

まず、「仕事」には、収入を得るという面だけでなく、「人の役に立つもの」という面があり、自分の仕事を通して社会で自分の役割を果たすことの大切さについて話していただきました。



岡本忠則氏

また、企業が新入社員を採用するときに見ている力として

- ① 仕事をするために必要な力
- ② コミュニケーション力
- ③ 協調性
- ④ 主体性

を挙げられました。これらの力は高校時代でも身につけられるもので、そのために必要な事として、

- ① 高校生活をおろそかにしない
- ② 「読む・聞く・話す・書く」力を身につける
- ③ 最低限のルールを守る

という点を挙げられました。



講演の様子

そして、締めくくりとして、「ちょっと何かを変える」こと、10のうち3か4でも変えることが高校生にとって大切だということをお話されました。

ぜひ、現状をプラス方向に少しでも変化を起こし、今の高校生活を少しでもよりよいものにして、将来の道を切り開く第一歩を踏み出してください。

また、講演中、ほとんどの生徒がしっかりとメモをとりながら、「体全体」で講師の先生の話の聞くことができました。人の話を聞き、心を開いて、少しでも吸収しようとする気持ちが「ちょっと何かを変える」事につながります。いろいろな場面で自分の成長のヒントを得ることを考えてみましょう。成長のきっかけはいろいろなところにあります。そんなきっかけをあらゆる所で探していきましょう。

### 生徒の感想

講師の先生の言われた「高校生活をおろそかにしない！」を意識して、自分の高校生活を送ろうと思いました。(女子)

今の自分に足りないことが多いので、これからの高校生活で少しでも力をつけられるように生活したいです。(男子)